

水の音—日本画にみる川・滝・海の表情

会 期 2002年6月29日(土)～9月1日(日)

ふりそぐ雨、流れゆくせせらぎ、繰り返し打ち寄せる波…水の音は、人々に安らぎを与えてくれます。また、私たちの生活において、「水」は切り離すことのできない存在であり、特に、農業を第一の産業としてきた日本人にとって、水は人々の暮らしを潤す「天からの恵み」でした。本展では、さまざまに描かれた水の表情を川・滝・海をとおしてご紹介します。

川は生活の拠点であり、人は水の力を生活に利用してともに歴史を刻んできました。松本哲男《幽谷(スコットランド・グレンコー)》では、悲劇の舞台となった「嘆きの谷」に流れる陰鬱な空気が描き出されています。滝は神が住む処として、古くから信仰的に描かれており、那智ノ滝はその代表として広く知られています。富岡鉄斎《高士観瀑図》では、滝を眺めながらくつろぐ高士の姿がユーモラスに描かれており、地の白を活かした荒々しい滝の表現は水の勢いを見事にとらえています。また、海は波の形が弥生時代の銅鐸に描かれたのをはじめとして、絶えることのないエネルギーとその造形的な美しさが多くの画家を魅了してきました。林功《騒風》では、暗雲のもとで白く砕ける波が画面に力強く広がっています。

水面に静かに広がる波紋から雄々く流れ落ちる滝まで、水は多彩な表情を見せます。そうした清々しい52点の日本画作品が、暑さをひととき忘れさせてくれることでしょう。画面から「水の音」が聞こえてきませんか？

会 場 高崎市タワー美術館 (370-0841 高崎市栄町3-23 電話 027-330-3773)

時 間 午前10時～午後6時 (入館は午後5時30分まで)

金曜日のみ午前10時～午後8時 (入館は午後7時30分まで)

休 館 日 毎週月曜日

会期中の休館日：7/1・8・15・22・29、8/5・12・19・26

観 覧 料 一般：500円(400円)、大高生：300円(250円)、中小生：200円(150円)

- ()内は20名以上の団体割引料金
- 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方、および付き添いの方1名、65歳以上の方、未就学児は無料となります
- 市内に居住する小中学生については、毎週土曜日は無料となります

主 催 高崎市タワー美術館

後 援 朝日新聞前橋支局、産経新聞前橋支局、上毛新聞社、東京新聞前橋支局、日本経済新聞社前橋支局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、NHK前橋放送局、群馬テレビ、エフエム群馬、ラジオ高崎

企画協力 山種グループ